

[男女共同参画センター](#)[生涯学習センター](#)[DV総合対策センター](#)[相談する](#)[図書を借りる](#)[視聴覚機材や
PCを借りる](#)[ホールや研修室を
借りる](#)[トップページ](#) > [生涯学習センター](#) > [講座レポート](#) > [令和3年度](#) > [課題解決支援講座](#) > 令和3年度課題解決支援講座（佐賀市）を開催しました

令和3年度課題解決支援講座（佐賀市）を開催しました

課題解決支援講座

佐賀県立生涯学習センターでは、市町、公民館等との共同企画で、地域課題の解決に向けて取組む講座を開催しています。<令和3年度は佐賀市、伊万里市の2地域と共催>

令和3年度 課題解決支援講座【春日北公民館】

佐賀市は、佐賀市公民館支援課×春日北公民館との共催で

「みえる ひろがる まちづくり」を開催しました。

春日北地区は、

まちづくり協議会ができて6年目を迎えます。当時作成されたまちづくりプラン「夢プラン」に沿って活動を続けてこられましたが、プランが存在することの再周知や内容の見直しが必要な時期を迎えていました。しかし、長期化するコロナ禍で、地域住民やまちづくり団体が顔を合わせる機会となっていた行事が減り、交流が希薄になっているとのこと。このままでは、今後のまちづくりについて意見を交わすことはもちろん、コロナ禍明けにスムーズに活動を再開することも難しくなるのではないかと懸念されていました。

そこで、講座では、まちづくり協議会をはじめ、春日北地区のまちづくり団体を対象に、団体同士が活動内容を共有し、知り合い、語り合うきっかけづくりを行い、今後互いに協力できる体制づくり、組織づくりをめざすこととしました。

講師は株式会社アテンド 代表取締役社長の福成有美さんです。

講座の様子を「通信」にもまとめています。どうぞ、ご覧ください。

第1回「春日北をかたるかい（会）みんなどげんしょー？」11/27(土)

第1回は、自身の団体を振り返りながら、他団体にも目を向け、知り合う回です。

春日北の6つのまちづくり団体（まちづくり協議会、自治会長会、老人クラブ、民生委員・児童委員協議会、体育協会、食生活改善推進協議会）から16名が会場に集合！

まず初めに配布されたのは「活動は？」「やりがいは？」「構成員は？」「困ったことは？」など、各団体への質問カード。会場のあちらこちらから「どうだったかな？」「そうそう！最近はそのだね」と互いに確認し合う声が聞こえてきました。質問の回答を考える中で、改めて団体の目的や活動を振り返ることができたようです。

続いて、この質問に沿って、講師の福成さんから各団体にインタビュー！なかなかこうして詳しく他団体のことを聴く機会はないのではないのでしょうか。アンケートには、「互いに知ることができてよかった」「知り合うことで理解ができる」「横のつながりを作らないと思った」など、気づきや共感の音が寄せられました。

 [講座通信 \(1\) ←こちらをクリックしてください。\(988KB; PDFファイル\)](#)

「みえる ひろがる かすがきた」通信

春日北をかたるかい(会) みんなどげんしよー? Vol.1

2021.11.27

まずは皆さんと話したい!

まちづくり、地域づくり活動をされている団体の皆さんに参加いただき、まずは顔を合わせ、知り合うことからスタートしました!



まち協が発足し「夢プラン」を作って7年目。皆さんとお話の場を持ちたい。ぜひご自身の意見を出してください。

まちづくり協議会 永原会長

まずは「みえる」=知り合うことから!と思っています。どうぞ柔な気持ちで語り合ってください。皆さんの活動を地域の方にも知ってもらえたら!

ご参加のまちづくり団体のみなさん

- ・まちづくり協議会
- ・自治会長会
- ・食生活改善推進協議会
- ・老人クラブ
- ・体育協会
- ・民生委員・児童委員協議会



春日北公民館 高山館長

まちを知る、人を知る、想いを知る、活動を知る

初めは緊張をときまくためにアイスブレイク!グループ内で行われた何気ない質問や会話も相手を知るきっかけになりました。

続いて持たれたのは団体の活動を振り返る時間。「どんな活動をしていますか?」「活動の目的は?」など準備された質問カードに、「昨年はどうだった」「今年はどうしたい」など、皆さん話が尽きないようでした。そしていよいよ福成さんからインタビュー!周りの団体から語られる活動内容に「ほ〜」と感嘆の声があがったり、抱える課題に「そろそろ」と共感の声が上がったり...

改めてお互いの活動状況を確認し合うことができました。そして皆さんそれぞれに大切なまちづくりを担われていることがわかりました。これをどう住民のみなさんに伝えていくか...。もしかしたら、知らないだけで、地域づくりに一歩踏み出せていない方もいるかもしれません。次回はどう知ってもらおうか、巻き込んでいくかを一緒に考えていきましょう。



インタビュー(質問)カード

新しい人とも参加してほしい!

みんなどげんしよー?

今後の進め方を考えてます

“自分のため”が“地域のため”につながって...

春日北地区は人口も子どもも増えています。このようなところは県内を見回してもほとんどありません。だから春日北には、自分たちの手で、他にはない「人口が増える中での地域づくり」を作る面白さがあります。

人生100年時代です。長い時間を、この春日北地区で自分の暮らしやすいように「好きな事させてもらおう」と取り組む団体があってもいいんじゃないでしょうか。

“自分のために”が、“地域のために”に繋がっていくと考えて、そこをスタート地点にしていただけたらと思います。



いつもありがとうございます!



各団体の活動と寄せられたサンキューメッセージ



アバンセ 上野事業部長

参加者の声 (アンケートより)

- *他の所属の活動状況、目的を聞いて良かった。
- *知り合えることで理解できる。
- *団体の意見発表がよかった。
- *みんなの横のつながりを作らないと悪かった。
- *校区全体にこんな会議があっていることを知ってもらいたい。
- *時代とともに取り組む課題は変わるもので、住民の事を聞くことも大切と思う。柔軟に、いろんな人の意見も聞きながら、これからのまちづくりを。

第2回「春日北をかたるかい(会) 困ったことはなか?」12/11(土)

2回目は、「困ったことはなか?」ということで、団体を超えて交流を行いながら、団体の抱える課題について話しました。

この回から、アイスブレイクを公民館主事の成富さんが担当。この日は「漢字集めゲーム」を行いました。続いて、「こんな春日北になったらいいな」と夢を語り合い、「団体が抱える悩み」について話しました。今回はワールドカフェ形式で、団体間を行き来しながらのワークです。

一緒に話し、考える中で、共通する課題や個々に抱えている課題が見えてきました。同時に「それならここが情報を持っているよ」「私たちはこうしているよ」など、解決の糸口になりそうなアイデアも出てきました。

参加された皆さんの話は尽きず、まだまだ話し足りない様子。このように会って話す場が必要だったと、実際に体験してみて感じていただけたのではないのでしょうか。

福成さんは「“会話”ではなく、聴くことに重心を置いた“対話”をすることで、住民の声が聞こえてくるし、アイデアも、協力してくれる人も増えていきます」と、「対話」の大切さについて触れられ、一同大きく頷きました。参加者からは「横のつながりができ、情報の共有化ができた」「語り合う喜びを感じた」「楽しかった」「これを機会に他団体との交流を深めたい」「話す機会を持ちたい」など多くの感想が寄せられました。

「みえる ひろがる かすがきた」通信

春日北をかたるかい(会) 困ったことはなか？

Vol.2

まずはアイスブレイク！

2021.12.11実施

この日は「漢字集め」のアイスブレイクでスタート！お題となる文字を含んだ漢字を書いていくゲームです。今日のお題は「金」。会場のあちこちから「あ〜！それもあつた！」との声があふいてきました。氷を解かすという意味をもつアイスブレイク。その名の通り、短い時間で場が温まりました。

みなさんいかがですか〜？

進行：公民館成富主事

団体を超えてつながる 一緒に考える

「春日北、こんなまちになつたらいいな」と春日北の未来について語り合い、その後、団体が抱える困りごとや悩みについて話しました。

ワールドカフェ方式でミツバチが花から花へ飛んで花粉を落とすように、他団体の席にも移動しながら話をしていく参加者の皆さん。それぞれの団体の抱える課題について、一緒に考え「それならここが情報を持っているかも」「自分たちの団体はこうしているよ」とアイディアの花粉を落とすしながら対話の輪を広げていきました。

各テーブルで新しいタネが実ったのではないのでしょうか。



課題に向き合うときは

Point

- ★それって本当？を考える
- ★バイアス（これが当たり前）をはずす

講師：福成 有美さん
(株式会社アランド)

「感じたこと、気づいたこと、これからやりたいこと」を「マイハーベスト(収穫)」として持ち帰ってください

三役時をしい
女性も参加しやすい

<出てきた課題や意見の一部>

- ・知り合う機会って大切！「どうしてる？」と声をかけあえる場づくりをしたい
- ・活動を地域のの方に伝えたい
- ・コロナ禍で活動ができていないけど次回こそ！若い方にも興味を持ってもらうには？
- ・ママや子どもが集える場を
- ・会員、役員、後継者不足
- ・災害時や日ごろの支援の仕組みづくり
- ・交流の場や機会の創出
- ・活動の見直し ・ゴミ問題 などなど…

対話を大切に…

知れば一緒に考えられることがある

今回は団体を超えて、共通の課題も、それ以外も、自分ごととして話し合っていました。団体ごとに考えるより、一緒に考えた方がアイディアや意見が広がり、解決できることが見つかるかもしれません。会場を見渡すと、各テーブルで“会話”ではなく聴くことに重点を置いた“対話”が行われていました。参加された皆さんの協力であたたかな場ができました。まちづくりはチームづくりと似ています。「枠をつくらず、いろんな方と交わり、対話を大切にしながらまちづくりをしていただく、さらに住民の方の声が聞こえてくるし、協力してくれる人が増えていくと思います」と福成さん。アンケートには「連携」や「人、後のつながり」を大切にしたいとの声を多くいただきました。

アンケートやスマホを活用して情報共有を！

横のつながりができると情報の共有ができる

参加者の声 (アンケートより)

- ★他団体の課題が見えた。私達の団体の課題も知ってもらえた。
- ★交流を持つことで活動の共有化につながる。
- ★対話することの重要性が印象に残った。これを機会に他の団体との交流も深めたい。
- ★色々な意見があって知って良かった。
- ★まちづくりに熱心な人が多くて驚いた。
- ★グループごとの対話が非常に楽しかった。

人とつながること

参加者のハーベストから

新しい人を知ることで

自分の問題はみんなの問題でもある

地域とつながるといいかん

「みえる ひろがる かすがきた」通信

春日北をかたるかい(会) 元気になる会議でまちづくり力UP **Vol.3**

2021.3.9実施

公民館オリジナル「松ぼっくりタワーゲーム」でアイスブレイク!

前回は積みアイスブレイクを進行するのは公民館の福成圭子。今回は、手作りの松ぼっくり人形を積み上げて高さを競う「松ぼっくりタワーゲーム」を行いました。総務会議をして取り組むチーム、松ぼっくりを上手く取まねながら絶妙なバランスで積み上げるチーム、福成さんのヒントを聞いて「その方法もあったか!」と土台づくりから再チャレンジするチーム、それぞれに思い思いのタワーが完成しました。



途中上手くいかなかったり、倒れたりしながらも、色々な形、やり方で最後まで諦めずに取り組んでくださったおまちづくりに通じるなと思いました。アイスブレイクは講座に合わせて趣向があって行われているんですね。

これまでとこれから

実は、今回の講座、元々は1月22日に開催をする予定でした。ですが、新型コロナウイルスの感染拡大(第6波)を受け、2回、延期をする事となりました。そして前回の講座から空くこと3ヵ月、当初予定していた「講座の参加者を増やして関わる人を広げる」という内容から、「人は増やさず今までのメンバーで、今後、より多くの人の関わっていただくための仕掛けを考え学ぶ」という内容に変更して開催を決定。「くっつくがんで、コロナの状況が良くなったならポンと飛べるように、ポジティブな方向転換をしました!」と福成さんから経緯をお話しいただきました。

講師: 福成 有美さん
(株式会社アランド)

学んでみようファシリテーター

ファシリテーションとは、人々の活動が容易にできるような支援し、うまく事が進ぶように舵取りすることです。福成さんは「この「容易にする」、つまり「〇〇しやすくする」人がファシリテーターです。」とし、ファシリテーターがいる会議と、いない会議をイラストを使って説明されました。そのイラストから見えてきたファシリテーターの役割は大きく3つ、「皆が見えるようにする(見える化)、聴けるようにする(聴ける化)、プロセスを見えるようにする(見える化)」です。地域には様々な人がいます。「考え方は違って当然。だからこそ、話し合って、聴き合って、対話する。そうすることで、同じ目標に向かって協力し合える関係ができるし、もしかすると話し合いの参加者が参画者になって、そこからまたより多くの協力を得られるようになるかもしれません。」と福成さん。だんだんとファシリテーターの大切さがわかり、皆さんの顔が大きくなっていきました。



- 「チェックしてみよう!」
- 「会議25のチェックシート」
- 「時間通りに始まり、終わる?」
- 「目的(ゴール)を文字で共有している?」
- 「意見が出やすい席の配置の工夫は?」
- 「議論と決定はある?」
- 「など25項目について、参加したことがある会議に照らしてチェックしました。」

みんなが、まちが、元気になる会議の作り方

では、見える化、聴ける化、見える化ってどうすればいいの?というところで、後半は具体的な事例やワークを通して「元気になる会議の作り方」を考えていきました。



付箋を使うと、水の大きい人だけでなく、全ての人が意見を出しやすくなる!(見える化)

ホワイトボードが議事録に!より深く聴くための質問「〜という?」「どんな感じ?」(聴ける化)

参加者の声 (アンケートより)

- *「ファシリテーターの役割」から自分のやるが見えてきた。
- *会議だけでなく生き方にも活用できそう。
- *イベントが目的ではない。そのプロセスの中で人と人とのふれあいが良い結果を生む。
- *具体的行動に同じ目標を持って動くための話し合いの基本的な考え方がよかった。
- *全員参加の会議の方法。意見を聞くこと。
- *言える、聴ける、見えるでつないでいく。
- *最初の松ぼっくりでの暖かい雰囲気づくり、工夫いただきありがとうございました。
- *ファシリテーションが理解できた。

第1回、第2回の講座を通して、団体を越えて交流を行いました。そして、春日北の強み、課題が見えてきました。この課題を解決するためには地域の人の協力が不可欠です。最後に福成さんから「もっと自発的に、皆が見える言える、聴ける、考えることができれば、皆で色々なことを大切にしたり、必要に合わせて変えたりすることができるようになります。皆が元気になる会議、ワクワクするまちづくりで「なるほど」と共感出来たら、一人ひとりの行動が変わっていくかもしれません。皆で分かち合える春日北を実現してください。」とエールを贈られました。

第4回「どうだったかい(会)」3/10(木)

第4回は、まちづくり協議会の方と講座を振り返り、見えてきた強みや今後の課題について話しました。「思っていた以上に団体間の交流ができた」「以前より他団体に相談がしやすくなった」「早速、講座の内容を団体に持ち帰って報告し、メンバーに伝えようとしている団体がある」「まちづくり活動をまた頑張ってみよう!と前向きに思えるようになった」などの声が寄せられました。また、講座で見えてきた課題について、福成さんからより具体的なアドバイスもいただきました。講座の効果を感じ、共有し、これからの春日北に思いと期待を寄せる回となりました。

その後・・・

今回の講座を通じて、対話の大切さや、話し合える場の必要性を感じられたみなさん。来年度以降も、この交流を続けたいとの声が早速上がっているようです。講座内では、団体がそれぞれに抱える課題、共通する課題が見えてきました。団体がつながることで一緒に解決できることがあるのではないかと、のびのび、気運も高まりました。今回できたつながりを持って、また、講座で得たスキルやヒントを活かしていただき、多くの参画者を増やしなが、ますます元気な春日北をめざしていただけたらと期待しています。



[アバンセとは](#) | [リンク集](#) | [公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団](#)

アバンセ 佐賀県立男女共同参画センター
佐賀県立生涯学習センター

TEL : 0952-26-0011
FAX : 0952-25-5591

〒840-0815
佐賀県佐賀市天神三丁目2-11(どんどんの森内)

 [交通アクセス](#)

 [お問い合わせ](#)

開館時間

火曜～土曜日：8時30分～22時00分
日曜・休日：8時30分～17時00分
(ホールは22時00分まで)

休館日

毎週月曜日(祝日も含む)
12月29日から翌年1月3日まで

[館内フロアマップ](#)



[施設利用の手続き](#)



[利用料金表](#)



[施設利用Q&A](#)



アバンセレストラン
「あいちゃん農園」
お問い合わせは
080-4312-4831